善養寺便り

令和四年　春号　発行　善養寺
第三十号

寒中お見舞い申し上げます。

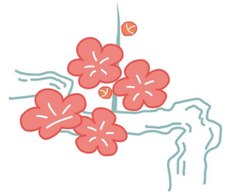
善養寺門信徒の皆様、いかがお過ごしでしょうか。今年もまだまだ寒い日が続いています。寒い上に、先が見えないコロナ禍が続いています。

誰もがコロナとの戦いの中で生きています。

そんな日々ではありますが、梅が咲き始め、桜の芽も膨らんできました。春は確実に近づいています。お念仏とともに、お気持ちを明るくお保ちください。

さて、当山は、このような状況ではありますが今年も例年通りの行事を計画しております。一月は、無事元旦会も勤まりました。不要不急の外出を控えるべき日々は続きますが、遇い難きご法縁です。

どうぞ皆様お気をつけて、是非とも善養寺にお参りください。



【令和三年度今後の行事のご案内】

◆第四回仏教講演会

日時　三月十一日（金）午後一時半
講師　安方哲爾師

令和三年度最後の講演会となります。三月の法座は、毎年高名な安方師をお迎えしています。感染は収まりませんが、貴重な法座です。お気をつけてお聴聞にお参りください。

◆春のお彼岸第五回「おてらくご」

桂雀々さん落語会
三月十九日（土）午後一時半

昨年九月から延期してました「おてらくご」を開催します。桂雀々さんは今回で五回目の来寺です。静かに？笑って、暗い気分を吹き飛ばしましょう。どうぞお楽しみに！

なお、いずれの行事も、本堂の換気を良くするため、ガラス戸は一部開けますので暖かい服装でお越しください。

【令和四年の主な行事予定】

◆「永代経法要」

日時　四月二十九日（金祝）
　　三十日（土）
　　午前十一時より
講師　尾寺俊水師（下関市）

◆「仏教婦人会総会並第一回仏教講演会」

日時　五月二十五日（水）
　　午前十一時より
講師　軌保（のりやす）真澄師（朝来市）

◆「第二回仏教講演会」

日時　七月十二日（火）
　　午後一時半より
講師　谷川弘顕師

◆「報恩講法要」

日時　十一月一日（火）
　　二日（水）
　　午前十一時より
講師　栗原一乗師（三原市）

◆「第三回仏教講演会」

日時　十二月十四日（水）
　　午後一時半より
講師　谷川弘顕師

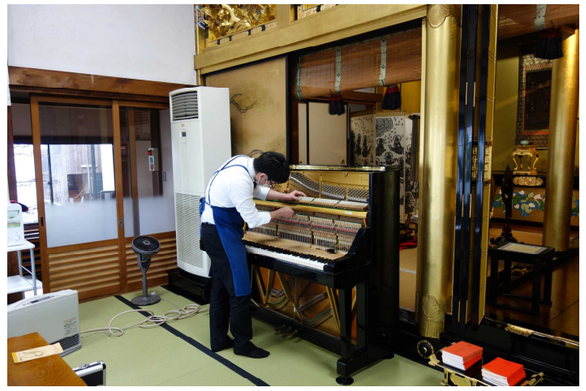
善養寺の最新情報は、ホームページでお知らせします。どうぞホームページをご覧ください。

スマートフォンからでも見られます。検索 姫路　善養寺

善養寺ＨＰＱＲコード→

★本堂にアップライト・ピアノを設置しました。

この度、長らく庫裏の一室に置いておりましたアップライト・ピアノを本堂に置きました。八木楽器さんにメンテナンスと調律もしていただきました。まだまだよい音がします。また、機会を見つけ、このピアノでのミニ演奏会を催せたらと思います。



★令和四年元旦会

一月一日、令和四年の「元旦会（がんたんえ）」が無事勤まりました。今年も多くの方にお参りいただき、皆様とともに正信偈をお勤めし、新年のご挨拶と元気にお念仏相続できますよう手を合わせました。

今年は二年ぶりに、伊藤典芳さんに新年の献歌を歌っていただきました。伊藤さんは昨年十二月にアクリエひめじオープニングシリーズとして上演された「オペラ千姫」に重要な役として出演されました。私も観劇しましたが、徳川秀忠の娘千姫が過ごした姫路城での十年を描いた素晴らしいオペラでした。

伊藤先生指導の善養寺コーラスは四月から再開予定です。

仏教聖歌から朝ドラの曲までいろんなジャンルの曲を歌います。

皆さん一緒に歌いませんか。

★仏教の言葉

「怨むことなき教えを仏教となし、
争うことなき教えを仏教となし、
誹（そし）ることなきを教えを仏教とする」（宝蔵経）

私たち人間は、三毒の煩悩をとり払うことができない凡夫です。

三毒とは「貪欲（とんよく）、瞋恚（しんに）、愚痴（ぐち）」といい、それぞれ「むさぼり、怒り、愚かさ」とも言います。私たちは常に我欲を満たそうとむさぼり、自分と違う考えや行動をする人に対し、腹を立てたり、おこったりして他人を傷つけます。そして真実の道理には目をそむけるのです。

今世界中にコロナが蔓延し、日々多くの人が苦しんでいます。いや、コロナだけでは無論ありません。ありとあらゆる苦しみが常に私たちを襲うのです。

ブッダとなったお釈迦様は、「一切皆苦」と説かれました。そのことを自覚した生き方が仏教的な生き方だと思います。仏教の役割とも言うべきでしょうか。

人を怨み、人と争い、人をそしる私たちは、お念仏を通して、極力そうならないような生き方を目指すべきなのでしょう。

よく言われることですが、インド人の挨拶は、合掌しながら「ナマステー」と言います。「ナマス」は敬愛する、「テー」はあなたという意味だそうです。「南無」はこの「ナマステー」から来たものですね。

そして、「南無」とは「おまかせします」ということで、「阿弥陀様にすべておまかせします」が「南無阿弥陀仏」なのです。

合掌、拝む時は、その両手は自他を害するものとはなりません。

「拝む」とは「己我無（おがむ）」とも当て字を書けるそうです。「己、我を無しにする」

そしてさらに、拝むことは、ハイ（拝）という素直な心になることです。

愚痴だらけの私たちは、もっともっと素直にならないといけないですね。南無阿弥陀仏　南無阿弥陀仏